２０２１年度事業報告書

特定非営利活動法人はすのは

「はすのは」は大きな失敗をしてしまいました。しかし「はすのは」を囲む皆さんは、その失敗を補うだけでなく大きく新たな前進に書き換えてくれました。

１、失敗を前進に書き換えてくれた応援団

（１）「はすのは」は新年早々「出資金のお願い」の文書を皆さんに送りました。すぐに先輩から「出資法違反のおそれ」と注意をもらいました。弁護士に検討をお願いして、その判断をもとに今度は「出資金のお願い撤回」と借入金のお願いを送りました。

（２）ところが、最初の出資金お願い文書を送ったと同時に応援団の大きな動きが始まりました。支援対象者、弁護士、地域活動家、「はすのは」メンバーやその友人、不動産屋、行政書士、ケースワーカー、ある市の救済窓口、県のある救済窓口、家主、司法書士、刑余者支援家などから寄附金持参、銀行振込、現金封筒送金が続き、激励の電話や手紙をいただきました。出資金の申出はゼロで、寄附金として新年度も続き１７０万円集まっています。

・支援対象者が千円札を持って駆けつけ「はすのは」が潰れたら自分たちが困る、助けてもらったから今度は、「はすのは」を助けようと激励してくれました。

・ある市の救済窓口では、所長が役所の各所属長に文書で「ホームレスなどの保証人や住居確保の支援、訪問で生活支援を行う活動」と紹介、ワンコイン募金を呼び掛けてくれました。片手では持てないほど重い硬貨を届けてくれました。

・県のある救済窓口では「いつもあんなに大変な仕事をしてくれているのに、何かしてあげないといけない。」と話し合って、浄財を集めて代表が激励に来てくれました。

２、さらにうれしい出来事

（１）前記の寄附金は応援団が造ってくれた資本金です。今年度の寄附金として使わせてもらうより「基金」として残すことにしました。扱い方は借入金にしますが年々２パーセントの利息を付けて一寸でも増やし、何年か経ったら福祉活動に寄附するとか、新たな事業に役立てるなど、寄附者の気持ちに添う使い方をするつもりです。寄附者の名前の付いた基金、二十数件の「〇〇基金」が毎年の決算書に残るようにいたします。

（２）国土交通省の居住支援法人活動が評価され、補助金が前年度を上回る金額で確定し、残りが年度末に振り込まれました。その内２００万円を定期預金にしました。

（３）高知銀行から運転資金を借入しました。安否確認の先頭に立って奮闘する家主が、知り合いの中央市場支店長に頼み、事務所に近い本町支店に引き継ぎ、その営業係長が実現させてくれました。係長と県信用

保証協会の面接で、使い道より活動状況を聞き激励されました。

３、支援対象者は、ほとんどが安心生活

（１）２０２１年度は、１７３人の方々を救済しました。そして、何年にもわたって御世話してきた人達のほとんどは安心生活を送っています。

（２）相談者の区分

① 高齢者	５１名	２９％
② 障害者(大半が精神障害者)	４１名	２３％
③ 刑余者	３０名	１７％
④ 生活困窮者	２１名	１２％
⑤ 生活保護受給者	１８名	１０％
⑥ 一人親世帯	４名	
⑦ ホームレス	３名	
⑧ ＤＶ被害者	２名	
⑨ アルコール依存症	２名	
⑩ 犯罪被害者	１名	

相談者数は横ばいで増加しておらず、減少分野もあります。県内の救済窓口や救済制度が広がりを見せていることや、「はすのは」の「どんな人でも助けよう」とする姿勢の足踏みもあります。

（３）救済内容

① 保証人の更新	５０名
② 生活保護申請・家探し・保証人探し	３８名
③ 家探し・保証人探し	４５名
④ 保証人探し	１８名
⑤ 生活保護申請	５名
⑥ 家探し	４名
⑦ 債務整理	４名
⑧ その他	９名

主要部分を整理すると、

① 生活保護申請	４３名
② 家探し	８７名
③ 保証人確保	９１名

生活保護申請は過去の実績から見て減少しています。救済窓口が広がっていることがうかがえます。家探し８７名は居住支援法人としては大きな実績です。保証人の更新は家を継続して借りることが条件ですから、家探しと合算すると１４１名になり、これも居住支援法人としては大きな数字です。しかし、単なる不動産業者にはならないように努力する必要があると言えます。

（４）事故事件

今年度も自殺者を出さないで終わりました。ＮＰＯ法人になってから出していません。

病死者５名、再犯者５名、行方不明（夜逃げ）者２名を出しました。

４、自社物件の運営
長浜の自社物件については、今年度初めに補修工事を行い運営開始しました。　　工事費は約９６万円ですが、高知県社会福祉協議会からの助成金と、入居者の家賃収入により５千円余の赤字となりました。

５、管理物件の運営（サブリース）
森田不動産の管理物件については、見守り安否確認活動が十分ではなく、これを改善しないと、今後の管理事業を営む資格が持てないと判断せざるを得ません。

６、赤い羽根共同募金酷暑対策事業
酷暑対策で簡易クーラー、扇風機、酸素計、体温計などの配布を実施は喜ばれました。これを支えてくれた赤い羽根共同募金の助成と、指導があって成功したものです。

７、財政活動
国土交通省(居住支援法人事業)や高知県(自殺対策強化事業)の支援と、「はすのは」メンバーの奮闘もあって、財政状況は前年度までに比べて大きく向上しました。
① 定期預金２００万円を造ることができました。資本金として確保して行きます。
② 入居費用貸付事業は手堅い運営になりました。今後の事業展開の中で対象者を増やしたいと考えます。
③ ○○基金は、冒頭に述べた事情で生まれたものです。これも資本金として確保して行きます。
④ 自殺対策強化事業は、１２５万円に対して１００万円を補助して頂きました。これまで１０年間この補助金を受け、基礎的な運営費を支えてもらっていることを考えると、その力強さを感じます。
⑤ 居住支援法人事業補助金は、業務内容を適正に評価して頂き、大きな金額で答えてくれました。その土台は、メンバーが奮闘してくれた結果だとしか言えません。